

EDUCATION

“2 度目” の生理学

藤田保健衛生大学医学部 2 年生 岡田絵里子

はじめまして。藤田保健衛生大学医学部 2 年生の岡田絵里子と言います。本学生理学講座の中島昭先生に Education に記事を書いてほしいと依頼され、書かせていただきました。

私は藤田保健衛生大学に入学する前に、岐阜大学応用生物科学部で獣医学を勉強していました。みなさん獣医というと、犬や猫といった伴侶動物のお医者さんといったイメージをされる方が多いと思いますが、牛や馬などの畜産動物や公衆衛生分野の獣医さん、製薬会社で勤務している獣医さんもたくさんいます。そのため、大学では動物が関わるものについて幅広く勉強をしてきました。私はどちらかというと牛などの大型動物が好きだったので、飛騨牛を育てるサークルに入って牛の出産から育成、出荷まで勉強させてもらったりしていました。牛のつぶらな瞳がとてもかわいいので、機会があれば一度よく見てみてください。岐阜大学を卒業後すぐに藤田保健衛生大学に再入学して、現在に至っています。

なぜ医学部に再入学しようと思ったかという、私自身に牧草やイヌのふけに対するアレルギーがあることが在学中に判明し、さらに友人が精神疾患を発症したこともあり、人の病気についてもっと知りたいなと思ったことが理由として挙げられます。獣医学科で 6 年間勉強してさらに医学部で 6 年間となるため、「女の子なのに大変ねえ」と言われますが、「いろんな患者さんがいるのだし、いろんな経験をした医者がいてもいいだろう」というくらいの前向きな気持ちで日々を送っています。

2 年生になって専門の講義ばかりになり、とても興味深く勉強しています。とくに生理学の勉強



獣医学科時代の実習にて

はとても楽しいです。なぜかというと生体のメカニズムを詳しく知ることができるからです。生理学を知らないと病気のメカニズムも理解できないし、生理学は臨床を学ぶ上で非常に重要な土台となる科目だと思っています。今回は、同じ生理学でも獣医学と医学では少し違うなと感じたことについて、お話をしたいと思います。

獣医学では牛、馬などの畜産動物から犬や猫などの伴侶動物まで様々な動物を対象に勉強するため、どの動物にも共通する生理学を学びました。そのため、人間と比較すると、どうしても広く浅くになってしまうのかなと感じていました。「なぜ」を参考書で調べていくと最終的には医学生理学にたどり着いてしまうため、結局は医学かと憤りを感じたことを覚えています。

一方で、医学では対象が人間だけであるため、とても深くまで講義をするなと感じました。その分だけ疑問をとことん調べていこうという気持ちにもなりました。調べていくことで、新たな発見や今までなんとなくで終わらせていたことに対す

る再発見もあり、勉強がとても楽しかったです。理解を深めていくことが将来の臨床につながるんだという充実感も感じました。

さらに、本学の生理学の授業は先生方のやる気が満ちており、よい緊張感の中で講義を受けることができました。講義の中で特に印象的だったのが、疾患との関連を含めて生理学を教えて頂いたところです。獣医学科で臨床まで一通り講義を受けたからこそその感想かもしれませんが、臨床の勉強をしていないと生理学がどうしても大切なのかといったイメージができなくて、ただの物語のようなものを感じてしまうことがあるかと思います。また、臨床を学んでも生理学へのベクトルはなかなかすぐにはつながらないと感じていました。しかし、このような私の気持ちを汲んでいるかのように、臨床と生理学が双方向に勉強ができるように先生方が非常に熟慮して講義を組み立てていくことが伝わってきて、その気持ちに背中を押されて勉強が進んだように思います。実習についても同様で、自分自身や同級生の体を検査するような形式で実習が行われ、その検査結果が正常であるか、なぜこのような結果になったのかといったことをしっかりと考察することに力をいれていま

した。丸暗記ではすぐに忘れてしまう知識でも、考えることで記憶にとどまりやすくなります。また、考える癖をつけることによって後々に知識が生きてくるようになります。これは臨床医を育てることに大学が力を入れていることの表れでもあるのかなと思います。

ある先生に、臨床の勉強をすればするほど、生理学をもっと勉強しておけばよかったなと感じると言われたことがあります。しかし、臨床の現場に出てしまうと、なかなか基礎的なことを勉強する時間がないのも現状かと思います。その点では、2度も生理学を勉強することができてほんとうに幸せなことだと思います。そう素直に感じるのも、一度獣医学でしっかりと基礎を築いてきたおかげであると思います。そのおかげで、医学生理学をほかの同級生よりも深く学ぶことができたと感じています。1度目の生理学の成績はお世辞にも優秀だとは言えなかったのですが、今ではとてももったいないことをしていたなと思っています。医学部で頑張っていくことが、獣医学を教えてくださいました先生方への恩返しになると思って、今後も勉強を頑張っていきたいと考えています。

「教育のページ」は学部学生、大学院生、ポスドク、教員などを対象に、生理学教育に関する取り組みや意見を紹介することを目的としています。原稿は Web（日本生理学会ホームページ）上にも掲載されます。皆様のご投稿をお待ちしています。投稿規程は <http://physiology.jp/exec/page/kyoiku-page-kitei/> をご参照ください。